

高知県佐川町立 佐川中学校

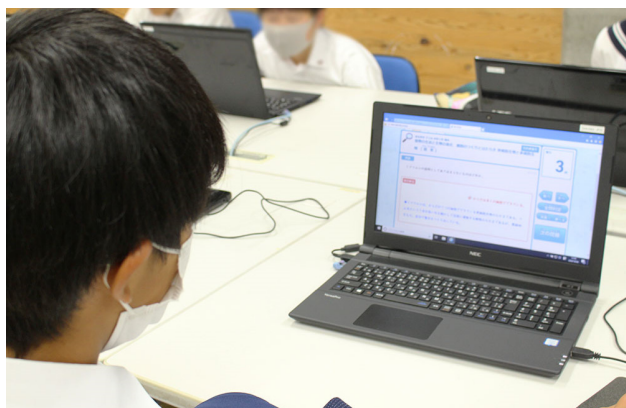


技術の授業で使い方を指導し、他教科の学習につなげる

～ 定期テストの学習を意欲的に取り組む～

佐川中学校では、「自立 協働 貢献」を教育目標に掲げ、生徒同士が『聴き合い・学び合い・認め合い』のできる学校を目指しています。今回は、定期テスト対策に利用しているeライブラリの実践と先生の工夫をご紹介します。

I eライブラリの使い方は、授業で指導



▲ つまづいた問題は、解答解説で確かめる

学習の仕方を指導することで、学習意欲が高まります」と畑山先生。学習範囲の広い定期テストの学習を、楽しみながら意欲的に取り組んでほしいという畑山先生の生徒への思いが伝わります。

ねらい eライブラリのさまざまな教材を使って、学習の仕方を覚える。

この日の技術の授業は、eライブラリを定期テストの学習ツールとして活用できるように使い方の学習です。先生の「わからない問題は解説教材で確認し、間違えた問題は解答解説を見ましょう」という掛け声で学習が始まります。生徒は一通一通をしっかりと読み、正答を導き出しています。

「生徒はICTを使うことが大好きです。最初に

I 学習内容を自分で選ぶことで、段階的に取り組める



▲ 学習する教材と難易度は自分で選ぶ

「学習する教材を自分で選べるので、自分のレベルや課題意識に沿った学習ができるところが良いです」と畑山先生。

生徒は、テスト範囲の単元を「基本」から復習したり、「挑戦」で力試しをしたりしています。また、つまづきの多い単元は、前の学年の関連単元に遡って学習している生徒もあり、個人個人が自分の理解度に合った教材に取り組んでいました。

インタビュー 達成感から自信につなげるツールとして

生徒はICTを使った学習に意欲的に取り組む傾向にあります。eライブラリは全教科の教材も収録されているので、定期テストや家庭での学習に活用できると思います。eライブラリは、**つまづいた問題も解説教材と解答解説で確かめて、正解するまでチャレンジできます。また、つまづきから学べることも多く、理解できたときの達成感が生徒の自信につながります。加えて、インターネットにつながる環境があることが前提ですが、つながって利用できさえすれば、家庭の経済的な格差の心配はありません。**

これからは、eライブラリと紙媒体のワークの特性を活かし、バランスよく取り組ませたいと思います。



技術科
畑山 和則 先生

■ 自分に合った教材が、学習意欲を高める



▲ 「いろいろカード帳」の問題を友達同士で取り組む

ねらい さまざまな教材に触れ、自分に合った学習方法を見つける。

授業の中盤には、いろいろカード帳で復習している生徒やグループもありました。生徒は、出題された問題を声に出してテンポよく答えたり、学習したことを思い出しながら慎重に答えたり、とても意欲的に取り組んでいます。難しい問題は、友達同士で取り組み「わかった!」「次の問題をやろう!」と自然と学び合う姿が見られました。

生徒の学習の様子



「ドリル」でテスト範囲の単元を学習する。



「テーマ学習」で取り組みたい教科を系統別に学習する。



「マイページ」で学習回数や得点などで変化するイラストを確かめる。

eライブラリ活用のねらい

- I C Tを利用してテスト勉強に取り組ませ、生徒の学習意欲を高める。また、その学習意欲を家庭での学習につなげる。
- 学習する教材を自分で選ぶことで、生徒が自分に合った学習方法を見つける。

先生の工夫

- 授業の最初に、「わからない問題は解説教材で確認し、間違えた問題は解答解説で確かめること」と伝え、学習の仕方を指導する。
- 技術の授業で使い方を指導し、他の教科の学習につなげる。

インタビュー

多種多様な考え方から生まれる学び



校長
三浦 健吉 先生

本校では、生徒が多種多様な考え方をお互いが『聴き合い・学び合い・認め合い』、全員が自信をもって学習できる環境を目指しています。そのために、教員も生徒の立場に立って、生徒を尊重した接し方ができるよう心がけています。

学習活動においては、古きよきものは残し、新しいものは積極的に取り入れていきたいと考えています。I C Tは、生徒の学習の選択肢を増やし、学習意欲も高めることができます。eライブラリは、**教科や単元を自分で選べるので、その日の学習内容を自分で決めることができます。つまり「なぜ」から『聴き合い』が始まり、生徒同士の『学び合い』が生まれ、『認め合い』につながる場所がとても良いです。**

今後も生徒が主体的に学び、他者と課題を解決する力を身につけられるように、I C Tを効果的に活用していきたいと思っています。